

第1回バリアフリー推進ワークショップIN関西

寺社仏閣と城郭における 観光バリアフリーの現状と課題

参加
無料

世界遺産に登録され、多くの参拝客、観光客が訪れる清水寺と姫路城。それぞれ平成22年度、平成26年度に「国土交通省バリアフリー化推進功労者大臣表彰」を受賞されました。文化財としての維持と、多くの方々に参拝、観光して頂くための施設整備という、一見相矛盾する課題を、様々な工夫で乗り越えて来られたお二人に、これまでのバリアフリー化に向けた取り組みと、今後の課題についてお話し頂きます。

日時

平成27年9月3日(木)

[受付開始 14:30] 開演 15:00 ~ 17:00

場所

中央電気倶楽部西館 513号室

〒530-0004 大阪市北区堂島浜 2-1-25

定員

定員 50名 (お申込みは先着順)

お申込み方法は
裏面をご参照下さい

事例紹介者



音羽山清水寺 執事補
大西 皓久 氏



姫路城管理事務所長
石川 博樹 氏

コーディネーター

近畿大学名誉教授
三星 昭宏 氏

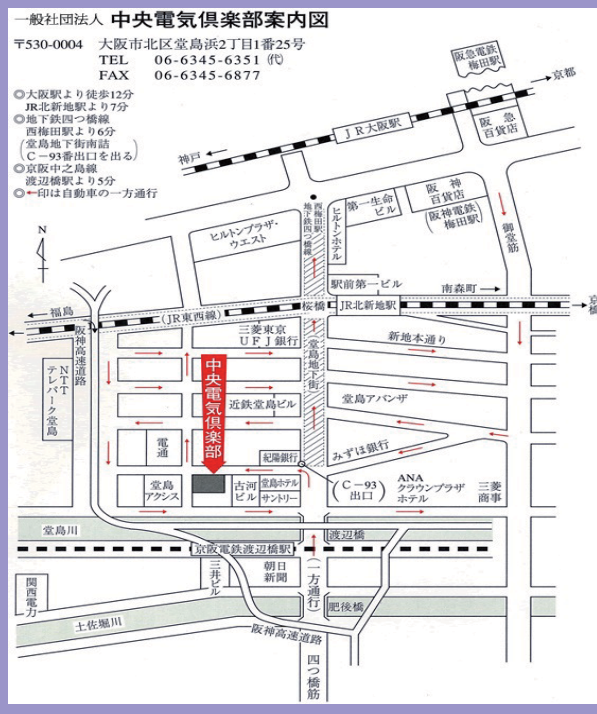
コメンテーター

大阪大学
未来戦略機構第五部門
未来共生イノベーター
博士課程プログラム特任助教
石塚 裕子 氏



時間	プログラム
15:00	開会あいさつ
15:05	音羽山清水寺 大西皓久氏 「清水寺での取り組みと課題」
15:45	姫路城管理事務所 石川博樹氏 「国宝指定を受けた城郭の保存修理 観覧時を含むバリアフリー化」
16:25	コメント・質疑応答
16:55	閉会あいさつ

会場アクセス



お申込み

開催事務局 (関西交通経済研究センター) 行

バリアフリー推進ワークショップ 参加申込書

下記必要事項を記入の上、FAXまたはメールにてお申込み下さい。 **申込み締切日：平成27年8月26日(水) 必着**

■ご所属団体名			
■ご住所 (〒 -)			
TEL : ()		FAX : ()	
E-mail :			
■ワークショップご参加者			
	ご所属部署・お役職	お名前	【懇親会】会費 3,000円(税込)
①			<input type="checkbox"/> 出席 <input type="checkbox"/> 欠席
②			<input type="checkbox"/> 出席 <input type="checkbox"/> 欠席
③			<input type="checkbox"/> 出席 <input type="checkbox"/> 欠席
備考			* 懇親会は 17:10 ~ 18:40 を予定

FAX番号 **06-6543-6295** Mail アドレス : **a.kankou@kankouken.org**

* 手話通訳が必要なお申込者様につきましては、別途下記連絡先まで事前にご連絡下さい。

* セミナー当日は本申込書又はお名刺を受付にご提出頂きますようお願い致します。* ご記入頂きました個人情報は、本目的以外へは一切使用致しません。

お問合せ 【開催事務局】 公益財団法人関西交通経済研究センター 業務部
〒550-0005 大阪市西区西本町 1-7-2 ウェストスクエアビル 9階
☎06-6543-6291 fax06-6543-6295 mail : a.kankou@kankouken.org

第1回バリアフリー推進ワークショップ in 関西

＜テーマ：寺社仏閣と城郭における 観光バリアフリーの現状と課題＞

1 概要

- 1.1 日時：平成27年9月3日（木）15：00～17：20
- 1.2 場所：中央電気倶楽部西館513号室
- 1.3 講師：大西皓久氏（北法相宗音羽山清水寺 執事補）
石川博樹氏（姫路城管理事務所長）
- 1.4 事例紹介者：山本早織氏（パシフィックコンサルタンツ株式会社 技師）
- 1.5 コーディネーター：三星昭宏氏（近畿大学名誉教授）
- 1.6 コメンテーター：石塚裕子氏（大阪大学未来戦略機構 第5部門未来共生イノベーター 博士課程プログラム特任助教）
- 1.7 参加者：49名
- 1.8 講演概要

世界遺産に登録され多くの参拝客や観光客が訪れる清水寺と姫路城は、文化財としての維持管理と多くの方々に参拝、観光して頂くための施設整備という、一見矛盾する課題があり様々な工夫でそれらを乗り越えて来られています。そこで、これまでのバリアフリー化に向けた取り組みと、今後の課題についてのお話をいただきました。

音羽山清水寺の大西氏からは、段差の解消、看板の設置、参拝経路のジャリの撤去及び舗装化、石畳の凸凹の一部改修、トイレを身障者用トイレに改装、車椅子で参拝される方への経路地図の配付といったこれまでの取り組みについての経緯や解説がありました。今後の課題として、現在は車いすを利用されている方への対応がメインになっており、目の不自由な方、耳の不自由な方への対策が不十分ということと、その他、お一人で参拝に来られる障がいのある方への対応、外国から来られる方への言語の対応といったソフト面の対策も必要であるとの結びでありました。

また、清水寺には、手で触って拝める「ふれ愛観音」という観音像があり、目の不自由な方にも多く参拝していただいているとご紹介がありました。

次に姫路城管理事務所長の石川氏からは、初めに姫路城大天守修理見学施設「天空の白鷺」の解説がありました。大天守の保存修理工事の実施に際しては、登閣が困難な人の見学機会の確保や関心の少ない市民の誘導を図るという基本方針を作成し登閣ルートでのバリア調査を行い、その調査結果をもとにバリアの軽減として、スロープの設置、経路の補修等（路面の補修・溝の段差解消）、身障者用仮設トイレの設置、多目的トイレの設置といったハード面での取り組みと、介助スタッフの配置、アシストホイールの設置、インターネットを利用した介助情報の発信及び車いすの必要な方の事前把握、車いす来場者の減免拡大（介助者3名まで無料）といった運営面での工夫に

関する取り組みの解説がありました。今後の展開として、文化財としての本質的価値を損なわない範囲でバリアフリー化に向けて可能なことを継続して実施していく。更に、現在、多くの外国の方への対策として、サイン、展示、パンフレット等を作成しているが、更新し多言語化を進めていることの説明がありました。最後に、姫路城の施設情報発信の取り組みとして作成したARアプリ『姫路城大発見』の紹介がありました。

引き続き、パシフィックコンサルタンツの山本氏より観光バリアフリーを推進するにあたり参考となるような事例の紹介がありました。初めに、触れる展示物の事例として龍安寺の枯山水の模型、宇治上神社の構造形式の事例、参拝ルートの確保の事例として龍安寺、薬師寺、伊勢神宮の車イスアクセスルートの事例、その他の事例として壺阪寺、専修寺の階段昇降機の事例が紹介されました。まとめとして、文化財であっても、さまざまな工夫により観光バリアフリー推進の可能性は広げることが可能であると結びました。

1.9 質疑応答

質問者 1：現状の施設変更に係る文化庁との関係。

講師（石川氏）：国まで話を持って行くと時間がかかり過ぎる。原則、市の許可で全て終わるように県と調整しながら行っています。

講師（大西氏）：姫路城のように公共の建物ではなく、持ち主は清水寺です。文化財保護の観点から厳しい規制があるのは事実ですが、その中で関係機関と相談を重ねながら、お参りに来られる方の事を最優先に行っています。

質問者 2：バリアフリー化に対する基本的な考えを教えてください。（人集めの為に行っているのではないか。）

講師（大西氏）：お寺という性格上、年配の方が多く、最初は年配の方を対象にスロープを付けはじめました。大前提として、お参りしたいと思った方が、「清水寺は段が多くてしんどいので行きたくないな」と思うことのないようなレベルにはしておきたい。出来るだけたくさんの人にお参りに来てほしいと考えています。

講師（石川氏）：登閣が困難な人の見学機会の確保や関心の少ない市民の誘導を図るという基本方針のもと、広く姫路城を見て頂きたいと考えてバリアフリー化を進めています。

質問者 3：少し前に調査の為に清水寺に行きました。バリアフリー化が進んでおり、どのような方も移動しやすくなっていましたが、その中に波形手すりがありました。障がい者、高齢者への調査から、実は波形手すりは使いにくく困っている人が多いと結果が出ていますがご存じでしょうか。是非お知らせしたい。

講師（大西氏）：少しでも使いやすいものにしたいと考え波形手すりを導入しました。このような機会にいろいろな意見をお教え下さい。より良いものへ変えて行きたいと考えています。

質問者4：どのような情報発信のツールが効果があるのか。例えばネット予約に関しどの位の利用があったのか。また、他のツールがどのような効果があったのか。

講師（石川氏）：「天空の白鷺」開催中の来場者が約160万人でそのうち約50万人が予約（内訳：電話予約が2／3、ネット予約が1／3）、約半数の80万人はインターネットを見てから来場。今現在は、インターネットで姫路城大入り実況を展開し待ち時間等をお知らせしています。効果は5人に1人位が見てから来場されています。

講師（大西氏）：あまり出来ていない。予約は必要ありません。情報発信はもう少し必要だと考えています。

質問者5：姫路城へ訪問する場合、車いすでどこまで行けますか。

講師（石川氏）：残念なことに、改修の間だけという条件でスロープを付けたので改修後に撤去しています。備前丸（姫路城前の広場）まで行くことが可能ですが介助サポートの方がが必要です。建物内は、現実的に難しい状況です。

講師（大西氏）：清水寺では、一番上まで行けます。ただし、本堂等、いくつかの場所は段があり介助サポートの方がが必要です。お一人で参拝することは難しい状況です。

質問者6：今後、オリンピック、パラリンピックに向けて海外から障がい者の方もたくさん来られるようになると思います。海外から来られる方の中にはハンドル形車いすを利用している方が多くいます。まだ、日本では利用者が少なく、現在は新幹線に乗車出来ない状況にあります。これからの課題として最終目的地まで単独で行くことの出来るという情報の提供が必要になってくるのではないかと。

コーディネーター（三星氏）：「今後バリアフリーチェックをされる際には、ハンドル形車いすもチェックして頂きたい」と、講師のお二人に理解を求めました。

2 配布資料

次のとおり。